

(資料2)

文化財の英語解説のあり方に関する有識者会議  
報告書（案）

平成28年2月

文化庁・観光庁



# 目 次

## 1. 会議の目的・背景 P.1～5

- (1) 訪日外国人旅行者の状況 ..... P.2
- (2) さらなる訪日外国人旅行者の拡大に向けての課題 ..... P.4
  - ① FIT化への対応, リピーターの確保 ..... P.4
  - ② 地方への誘客 ..... P.5

## 2. 解説の改善に当たっての視点 P.7～10

- (1) 基本用語の解説 ..... P.8
- (2) 興味・関心の把握 ..... P.8
- (3) 解説の手段の特性に応じた役割分担 ..... P.9
- (4) 人材確保 ..... P.10

## 3. 具体的事例（先進的な取組） P.11～25

- (1) 基本用語の解説を図るための取組 ..... P.12
- (2) 興味・関心の把握 ..... P.14
- (3) 手段・媒体の役割分担 ..... P.16
- (4) 人材の確保 ..... P.24

## 4. 解説の改善のための取組の進め方 P.25～28

- (1) 観光部局と文化財保護部局との連携強化 ..... P.26
- (2) 外部の視点の取り入れ ..... P.26
- (3) 国等による支援策の活用 ..... P.27

## 5. 参考 P.29～31

- (1) メンバー表 ..... P.30
- (2) 開催経緯 ..... P.31

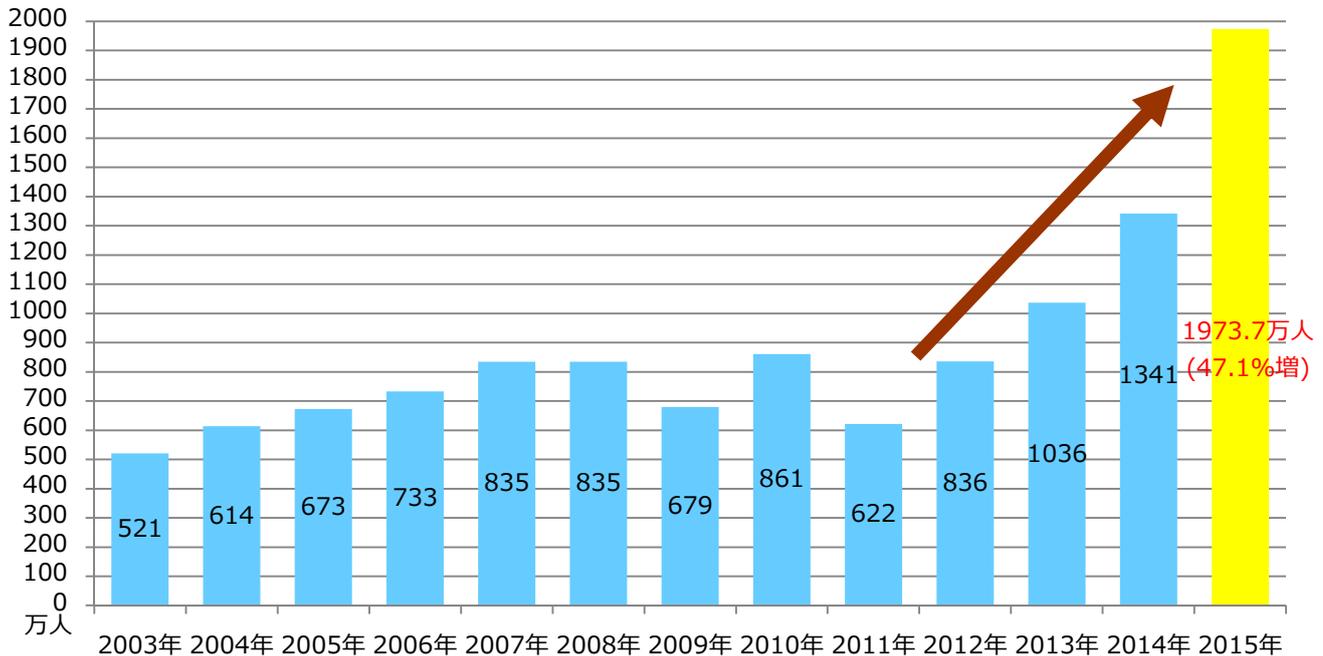


# 1. 会議の目的・背景

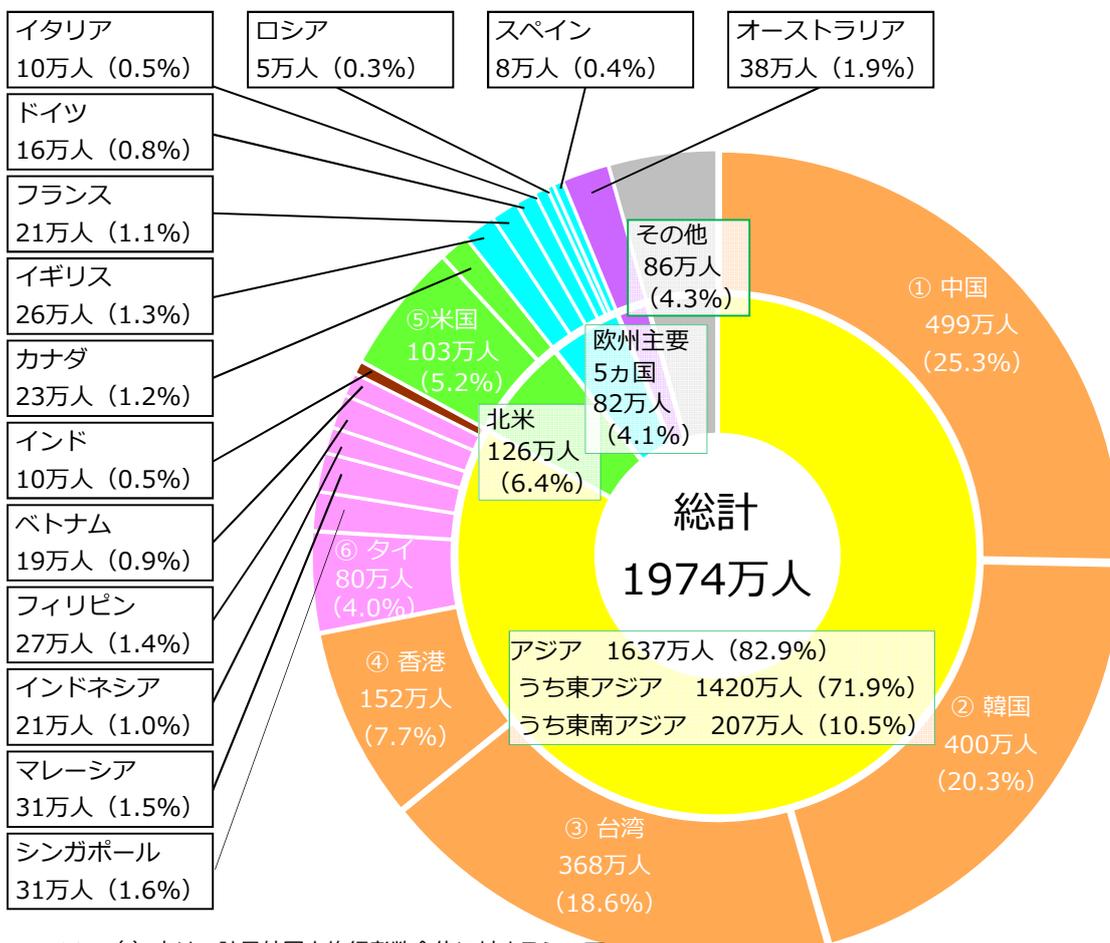
---

# 訪日外国人旅行者の状況

## 訪日外国人旅行者数の推移



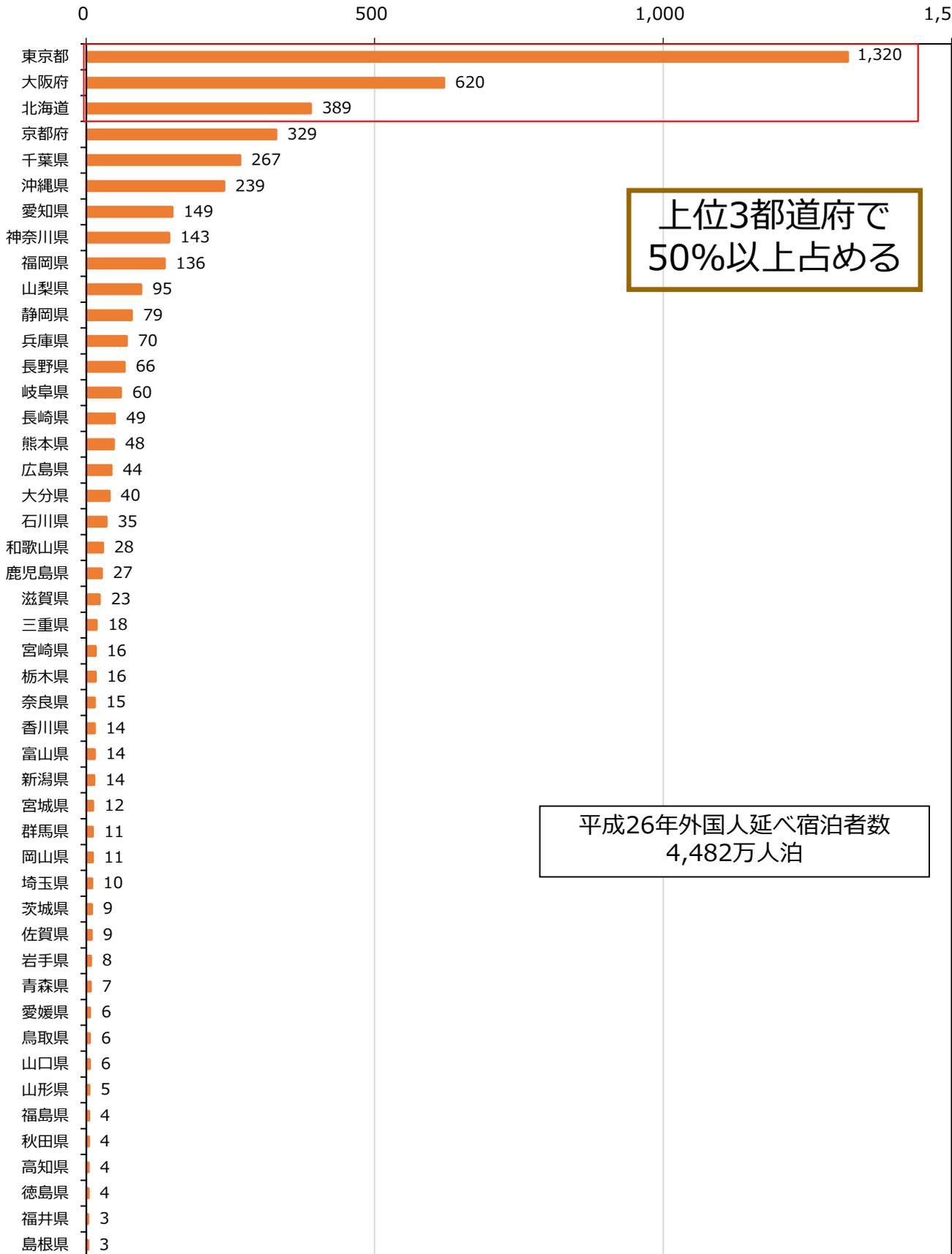
## 2015年訪日外国人旅行者数及び割合 (推計値)



- ※ ( )内は、訪日外国人旅行者数全体に対するシェア
- ※ その他には、アジア、欧州等各地域の国であっても記載のない国 地域が含まれる。
- ※ 数値は、それぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは合致しない場合がある。
- ※ 日本政府観光局 (JNTO) 資料より観光庁作成

# 都道府県別外国人延べ宿泊者数（2014年）

(単位：万人泊)



上位3都道府県で  
50%以上占める

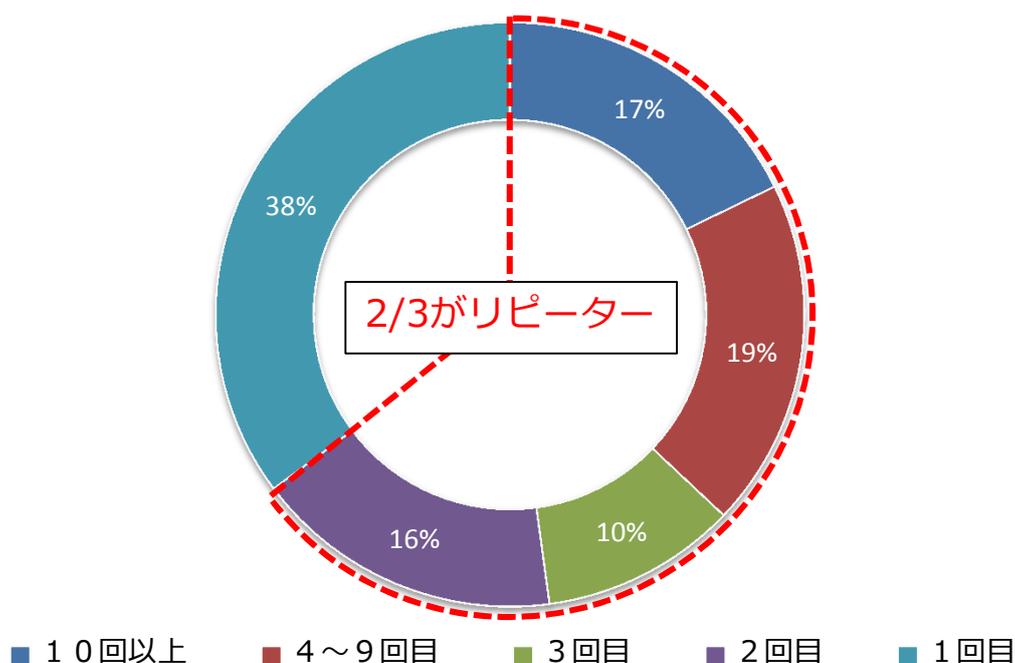
平成26年外国人延べ宿泊者数  
4,482万人泊

# さらなる訪日外国人旅行者の拡大に向けての課題

## ① FITへの対応・リピーターの確保

### 訪日外国人旅行者の訪問回数

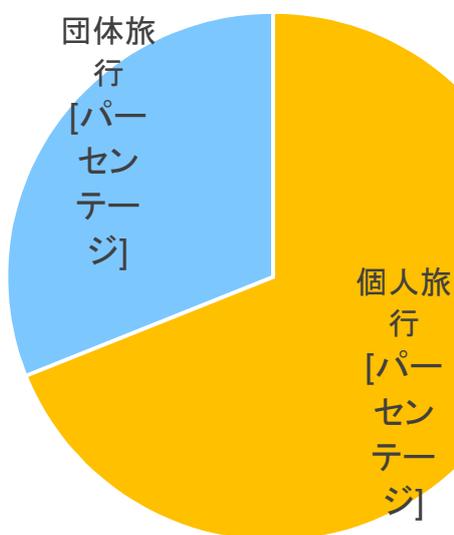
2014年  
(1,341万人)



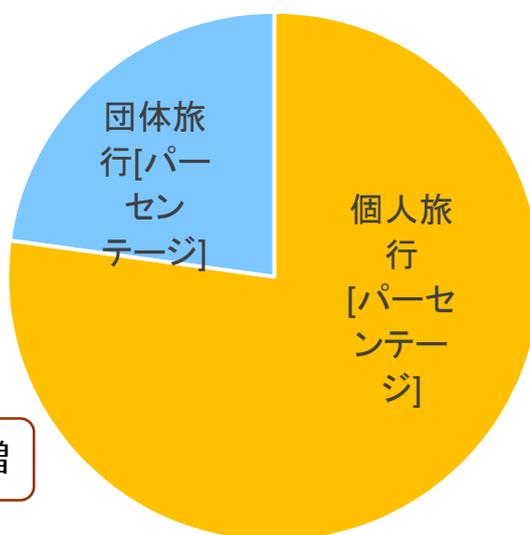
(出典) 平成26年訪日外国人消費動向調査

### 訪日外国人旅行者の形態

(2010年)



(2014年)



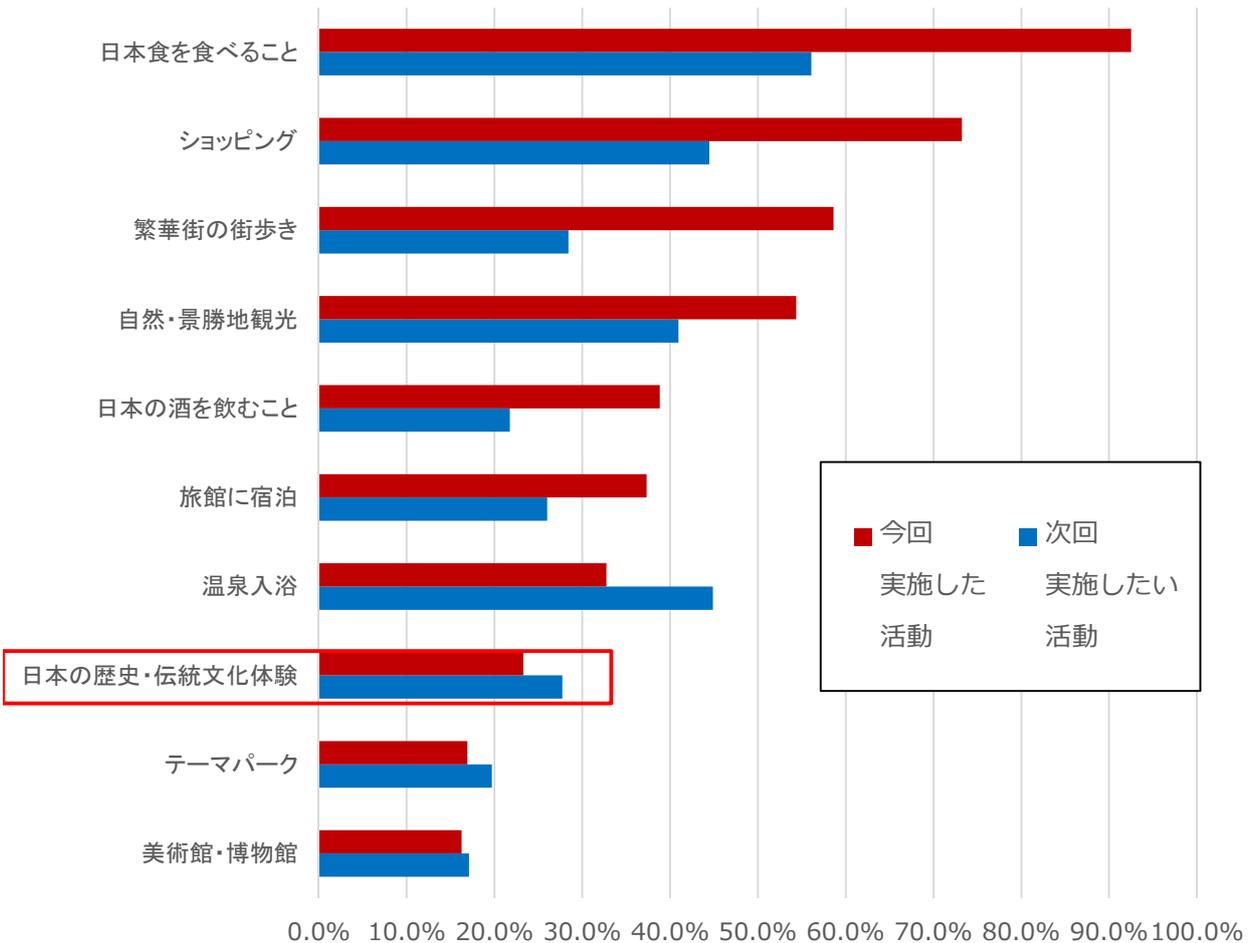
FIT率 8%増

(出典) 平成26年訪日外国人消費動向調査

## ② 地方への誘客

### 訪日外国人旅行者が実施した・したい活動

○ 訪日外国人旅行者は最初の訪日の際には、日本食、ショッピング等への関心が高いが、その後歴史・文化への関心が高くなる。



(出典) 平成26年訪日外国人消費動向調査 (観光庁)

○ 引き続きより多くの外国人旅行者に、我が国を訪れていただくためには、我が国の歴史・伝統文化を観光資源としていかに活用するかがポイント。



文化財を訪日外国人旅行者に理解していただき、満足度を高めるための解説の改善・充実が重要。

このため、文化庁と観光庁においては、自治体・社寺などの文化財関係者、通訳ガイド等をメンバーとした有識者会議を設置し、具体策を議論した。



## 2. 解説の改善・充実にあたっての視点

---

外国人が日本の文化財を訪れたときに分かりやすい解説がなければ、真に伝えるべき文化財の由縁や歴史を伝えることができず、文化財の本当の価値を理解することができないため、適切に評価することもできない。

その際、外国人にも分かりやすい解説を作成し、「見られて感動し、その価値を理解していただく」には、以下の4つの視点が重要である。

- ・基本用語の解説
- ・興味・関心の把握
- ・解説の手段、媒体・特性に応じた役割分担
- ・解説文作成のための人材の確保

## (1) 基本用語の解説

- 文化財を鑑賞する上で、日本の文化や歴史を知らない外国人は、日本人であれば当たり前という言葉を理解できない。
  - 基本的用語であるからこそ、その解説がなければ外国人に混乱をもたらす。
- ⇒ 「神道」や「仏教」などの基本用語については、**分かりやすい解説**が必要。

**【基本用語の統一を図るための取組の事例】**  P. 12

## (2) 興味・関心の把握

- 日本人と外国人では、何に興味を持つか、関心を持つかは違う。
  - 外国人の中でも属性により興味・関心は一様ではない。
- ⇒ ターゲットとする外国人が文化財の**何に興味を持つか、関心を持つかを調査し、その結果を基に解説の項目・内容を決定し、メリハリの利いた解説**を作成することが必要。

**【興味・関心の把握のための取組の事例】**  P. 14

## (3) 解説の手段・媒体・特性に応じた役割分担

- 文化財の解説をするにあたり、どういった人を対象にするか、どのような手段で解説を掲載するかにより、以下のように役割を明確にし、その役割に応じた解説をすべき。

項目 手段	対象・解説の内容
平易 案内板 解説板	<p>【対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全来訪者</li> </ul> <p>【解説の内容】</p> <p>(施設入口)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文化財の位置など地理的要素について説明。</li> <li>○ その施設主体の文化財・歴史的背景を説明。</li> </ul> <p>(個別文化財)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文化財の由来や価値を分かりやすく説明。</li> </ul> <p>※ 重要なものについては、外国人向けに日本人が重要視している価値等を付加。</p>
パンフレット	<p>【対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施設を周遊する際の地図として使用したい者</li> <li>○ 文化財に関心があり、その情報を持ち帰りたい者</li> </ul> <p>【解説の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的な周遊コースを表示。</li> <li>○ 文化財について、絵や写真とともに、その由来や価値等を簡潔に説明。(読み物的なパンフレット)</li> <li>○ 文化財について、絵や写真とともに、その由来や価値等を詳細に説明。</li> </ul>
音声ガイド	<p>【対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文化財を鑑賞しながら解説を聴きたい者</li> <li>○ 説明板には載りきれない情報を得たい者</li> </ul> <p>【解説の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施設の入り口において貸出を行い、個別の文化財の前でそれを鑑賞しながら、背景となる歴史や文化などについて説明。</li> </ul>
通訳ガイド	<p>【対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文化財を鑑賞しながら解説を聴きたい者</li> <li>○ 自分の関心に合った情報を得たい者</li> </ul> <p>【解説の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文化財そのものの解説に加え、現代の日本における価値や旅行者の出身国との関係について付加。</li> </ul>
ビクターセンター・資料館等 詳細	<p>【対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文化財に深く興味を持っており、ある程度時間を費やしてでも、当該施設・文化財を知りたい者</li> </ul> <p>【解説の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ パンフレットなどでは記載し切れない内容(歴史やその文化財の作成過程などのさらに細かい内容)を、大型パネルや映像、レプリカなどを用いて、さらに細かく解説。</li> </ul>

【手段・媒体の役割分担に関する取組の事例】  P.16

## (4) 人材の確保

### 我が国の歴史、文化に関する知識を有する人材の確保

○ 文化財所有者が、歴史を知らない外国人でも理解できる解説を作成するにあたっては、以下の点について留意する必要がある。

- ・ 複雑過ぎず長過ぎない、ネイティブスピーカーによる分かりやすい文章の作成
- ・ 外国人から見て洗練されたビジュアル、読みやすいフォントを用いた目を引くデザイン



このような対応をするためには…

以下のような人材を確保が必要である。

- ・ 日本の歴史・文化に関する知識があり、なおかつ英作文能力の高い人材
- ・ 英字を用いたデザインを手掛けており、見やすく目を引くデザインができる人材

⇒ 有用な人材をいかに確保するかが大きな課題であるが、自治体国際化協会関係の人材や、オーディオブック制作会社等の民間サービスをつまたく活用するの也是一案である。

【我が国の歴史、文化に精通する人材を採用している例】  P.24

### 観光地の現場を熟知する人材の確保

○ 文化財の解説にあたっては、文化財そのものの知識だけでなく、旅行者の目線に立って、実際の現場でどのようなことに関心が高く、何が評価されているかを理解し、解説の作成・改善に反映させられる人材が必要。

⇒ 外国人旅行者と現場に行くことが多く、現場の状況をよく把握している通訳案内士の知識を活用するの也是一案である。

【パンフレット作成等に関わっている通訳案内士の例】  P.26

### 3. 具体的事例（先進的な取組）

---

# 基本用語の解説を図るための取組

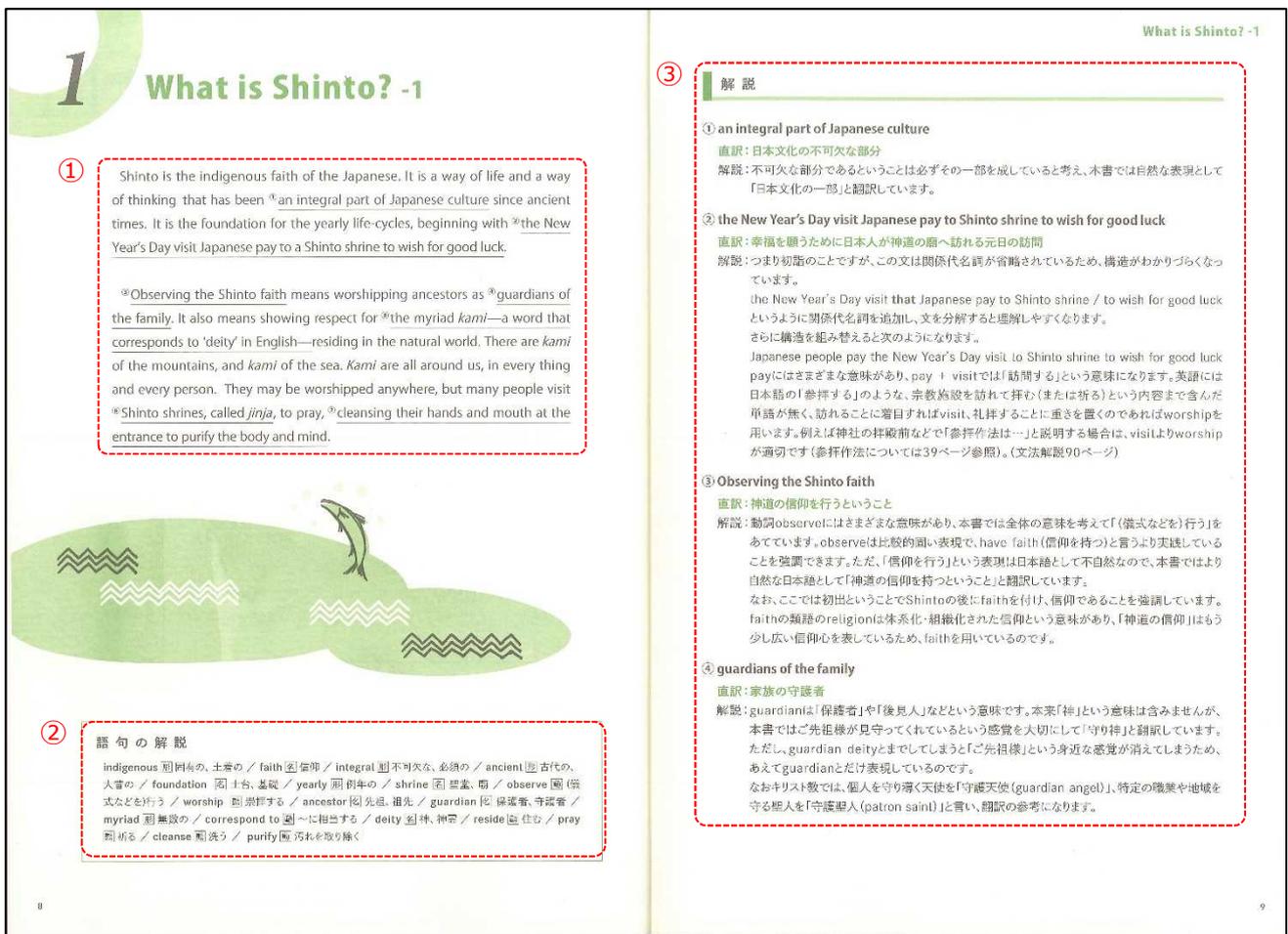
「英語で伝える日本のこころ Basic Guide」 SOUL of JAPAN 公式ガイドブック  
【神社本庁】

## 経緯

昨今、日本を訪れる外国人の数も増え、神社や神道について説明する機会が増えているが、専門的な知識が必要なため、正確な英訳は困難であることから、神社本庁では平成25年3月、神社や神道などの基礎的な情報を外国人視点でできるだけ平易な表現で説明した「SOUL of JAPAN」を発行。

その後「SOUL of JAPAN」を基に、単純に分かりやすく翻訳するだけでなく、その内容がなぜそのように書かれているのか、またどのように訳したらよいかを、日本文化や神道に関する情報を交えながら解説した「英語で伝える日本のこころ Basic Guide」を発行。

## 取組内容



### ① 本文

冒頭に基本用語を外国人にも理解しやすく解説した英語文を掲載。

### ② 語句の解説

英語解説に携わる者の用に供するため、使用頻度が高い英単語の説明を掲載。

### ③ 解説

本文の重要な個所について、その意味や考え方をさらに詳しく解説。

翻訳

③ the myriad *kami*—a word that corresponds to 'deity' in English—  
 直訳：無数の神（英語で「deity」に相当する単語）  
 解説：deityは、力の象徴として崇拝される超自然的な存在を指し、多神教の神を意味する語として使われることがあります。ただ、あまり一般的な言葉ではありません。また古代ローマの宗教のようにアニミズム的な、物に宿ったり場所を支配したりすると考えられた神霊をnumenと呼びますが、deity以上に一般的な単語ではありません。  
 『SOUL of JAPAN』では、神道における「神」の訳語として誤解の元となる「god」は使用せず、deityに相当すると注釈を付け、以降は全て「kami」で統一しています（18ページ『About Shinto』参照）。

④ Shinto shrines, called *jinja*  
 直訳：神社と呼ばれる神道の廟  
 解説：神社の英訳として用いられるshrineは、本来は聖人の遺骨などを祀った聖堂や廟を意味します。日本でも古くは、中国で氏族の祖先祭祀の場であり皇帝祭壇の場となった「宗廟」という語を、先祖神を祀る場という共通点から伊勢神宮などに用いられることもありました。神宮は祖霊堂や位牌の安置場所である廟とは本質的に異なるため、これは一種の雅称と考えられます。  
 『SOUL of JAPAN』では「神社」の訳語として一般的に浸透してしまっているshrineを、初出での脚注を除いて原則使用せず、そのまま「jinja」で統一しています（35ページ『About Shinto』参照）。（文法解説90ページ）

⑦ cleansing their hands and mouth at the entrance to purify the body and mind  
 直訳：体や心の汚れを取り除くために入口で彼らの手や口を洗う  
 解説：神社では参拝の際、鳥居近くなどに設けられた手水舎において、柄杓で水を汲み、両手を洗って口を漱ぎます。神前へ向かう前に心身を清める作法のひとつで、これを「手水をとる」などと表現します（31ページ参照）。（文法解説93ページ）

④ 直訳してみると ㊦  
 神道は日本人の土着の信仰です。それは人々が日本文化の不可欠な部分となってきた生き方であり、考え方です。それは幸福を願うために日本人が神道の廟へ訪れる元日の訪問をはじめとした、例年のライフサイクルの基礎となっています。  
 神道の信仰を行うということは、家族の守護者としての祖先らを崇拝するということも意味します。それはまた自然の世界に住んでいる無数の神（英語で「deity」に相当する単語）に敬意を示すということも意味します。山の神、そして海の神がいます。神は私たちの周りの全て、あらゆるものやあらゆる人の中にいます。それらはどこでも崇拝されるかもしれませんが、多くの人は神社と呼ばれる神道の廟へ祈るために訪れ、体や心の汚れを取り除くために入口で彼らの手や口を洗います。

翻訳は次ページ

⑤ 神道とは？ -1  
 神道は日本固有の信仰です。それは太古から日本文化の一部として伝えられてきた生き方であり、考え方です。また、一年の幸福を祈願する初詣に始まる年中行事の元にもなっています。  
 神道の信仰を持つということは、祖先を家族の守り神として祀るということも意味します。また、自然の中に存在する数多くの神を敬うことでもあります。山の神、海の神をはじめ、私たちの周り全てのものに人が神が宿ります。神を信仰する場所はどこでも構いませんが、多くの人々は神社を訪れて祈ります。そこでは心身を清めるため、入口で手を洗い、口を漱ぎます。



⑥ COLUMN  
 「おはよう」は「Good morning」？  
 誰もが慣れた挨拶の言葉。朝、誰かと会った時には「おはよう」と声をかけます。英語ではこれを「Good morning」と言うのは誰もが知っていることですが、実は日本語の「おはよう」とは意味が違います。「おはよう」は「お早く」が変化したもの、つまり本来の意味は「お早い時間ですわね」です。一方で「Good morning」はそれぞれの単語が示す通り、単純に「良い朝ですわね」という意味。二つに共通しているのは朝の挨拶という点だけなのです。このように、翻訳する場合には言葉通りに訳すだけでなく、時には習慣を考えに入れて別の表現に置き換えることも必要です。

④ 直訳

①の本文を、文法通りに直訳した場合の日本語文を掲載。

⑤ 翻訳文

①の本文の内容を、筆者の意図した内容に翻訳した日本語文を掲載。

⑥ コラム

神社や神道についてのさらに詳しい事柄や、英語に関する知識などの豆知識を紹介。

ポイント

- 宮司等が神社等を訪れた外国時に神道の用語について、分かりやすく説明できるよう、まずは、基本となる用語の解説を作成。
- その際、単に英語解説文を記載するのみでなく、どうしてそのような英文になっているか、その意味や考え方まで記載。

# 興味・関心の把握に関する取組①

## せんぐう館における多言語化調査事業（平成24年度事業）

【国土交通省 中部運輸局】

### 経緯

- 伊勢神宮外宮域内の「せんぐう館」に多言語音声ガイド機器を導入するに当たり、在日外国人を対象にモニターツアー、アンケート調査を行い、事業効果を測定。

### 取組内容

以下の4つの視点から事業効果を測定。

#### ① 音声ガイド機器

導入した音声ガイド機器が使いやすいか、不満はないか。

#### ② 解説内容

解説箇所や量は適切か。

#### ③ 興味・不明点

外国人がどのようなことに興味を持つか、理解できなかったことは何か。

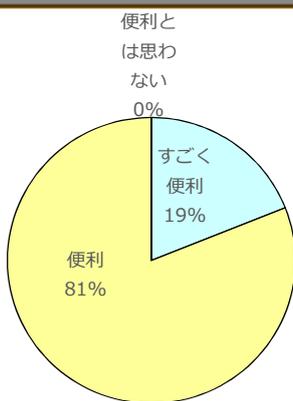
#### ④ 欲しい解説

外国人から見てどこの解説が足りなかったか。

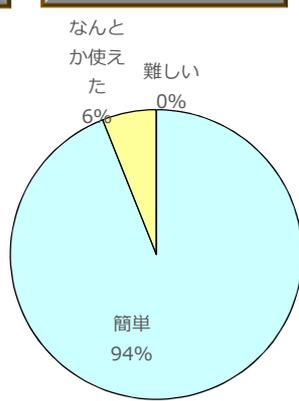


### 音声ガイド機器

音声機器は解説を理解するのに便利か



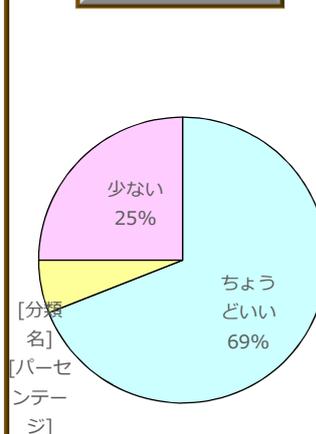
音声ガイドの操作について



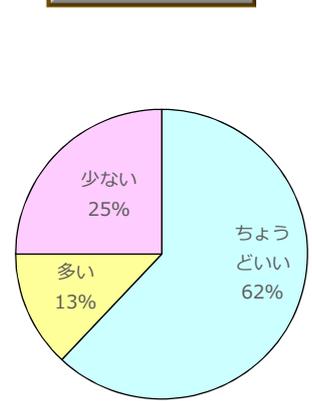
- 音声ガイド機器自体については、概ね好評な回答であり、外国人旅行者に解説するためのツールとして、有用であると判断している。

### 解説内容

解説箇所の数について



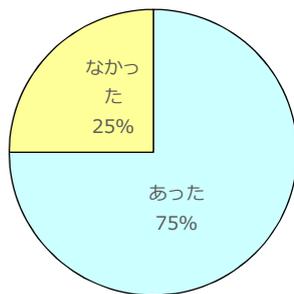
音声解説の量について



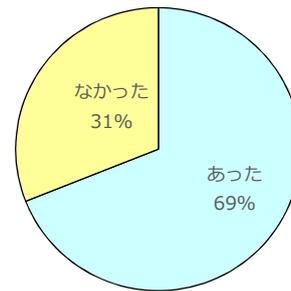
- ちょうどいいという意見が半数以上を占めているが、少ないという意見も1/4を占めており、数、量ともに増やしてもよいと判断している。

## 興味・不明点

興味を持った展示・解説はあったか



分からなかった展示・解説はあったか。



### 興味を持った展示・解説（例）

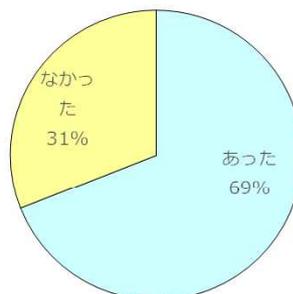
- ・実物大の神ミヤ殿 ・木材の切り方 ・正殿の構造 ・伝統的なやり方で神宝を製造する

### 分からなかった展示・解説（例）

- ・人や地名の名前が難しかったので、一部の説明が分かりにくかった。補足説明が欲しい。
- ・全体的に内容が難しいので、もっとやさしく、面白く説明してほしい。

## 欲しい解説

他に欲しい解説はあったか。



### (例)

- ・神 ・通路に掛けてある絵画 ・池について説明してほしい。 ・正殿の構造 ・神道
- ・分かりやすい言葉で神宮の日本人にとっての重要性に関して、説明が足りない。
- ・ほかの神宮の紹介が欲しい。
- ・どうして神宮の中に入れないのか。糸でかこまれた石は何ですか？

## ポイント

- アンケート内容を解説手段と内容に分け、外国人は「どのような内容に興味を持つか」「どのような言葉が分からないか」などといった点を調査。
- 興味を持った、解説が欲しい項目では、「神」「神道」「正殿」などの基本的用語に関するものや、建物の構造や周りの池、絵画などの日本人があまり興味を持たない部分が多い。
- このことから、日本人には比較的当たり前のことや気にならないことに外国人は興味を持ち、固有名詞などは説明がないと理解できないことが分かっている。

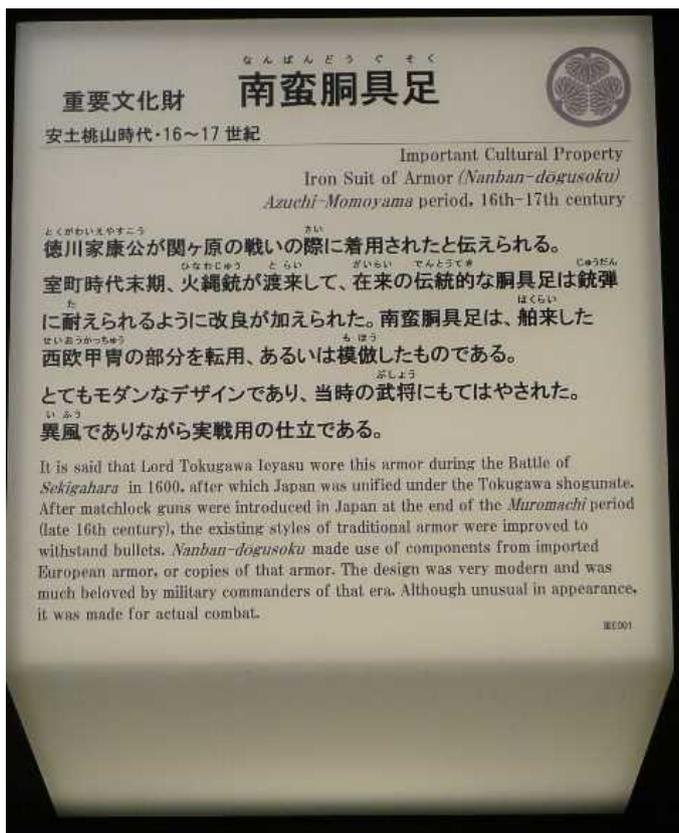
## 日光東照宮新宝物館

【日光東照宮】

### 建立経緯

- 東照宮四百年式年大祭を記念して，平成27年に建立。設計時から外国人を迎え入れるにふさわしい施設として作られており，映像機器を用いて徳川家康を分かりやすく紹介するとともに，英語解説についても設計時から考慮されている。





### 展示解説

日本の歴史を知らない外国人にも理解できるよう、英語解説では日本語解説より詳しく記載。

例えば、日本語解説では「徳川家康公が関ヶ原の戦いの際に着用された」と伝えられる。」の部分について、英語解説では、「in 1600, after which Japan was unified under the Tokugawa shogunate.」と付け加えられており、その後、天下統一したことが解説されている。

### 映像解説



東照宮全体の解説を、日本人女性が外国人女性を案内する映像で行っている。

音声で日本語解説を行い、テロップで英語解説を行う形となっている。

### ポイント

- 展示品解説板、映像コンテンツ、年表など様々な媒体を使用して解説を行っている。  
また、展示スペースなどの十分なスペースがある場合、日本語解説より詳しく英語解説をし、映像では東照宮全体の説明を音声とテロップを用いて行うなど、その媒体ごとに求められる役割に応じた解説を行っている。

# 調査中

## 事例候補

深川八幡宮（富岡八幡宮）の事例

伊能忠敬記念館の事例

小網神社の事例

江坂神社の事例

海外事例としてイギリスのバースにあるローマンバス（大浴場）

# 調査中

## 事例候補

鶴岡八幡宮の事例

伊能忠敬記念館の事例

# 調査中

## 事例候補

広島平和記念資料館の事例  
浜離宮庭園の事例

# 調査中

事例候補

京都特例ガイドの事例  
和歌山特例ガイドの事例

# 調査中

## 事例候補

広島平和記念資料館の事例  
岡田美術館の事例

## 有用な人材の確保の取組

### Brad Towle (ブラッド トウル) 氏 (元JETプログラム参加者)

【田辺市熊野ツーリズムビューロー】

#### 取組内容

- ブラッド氏の経験を基に看板のローマ字表記の仕方やデザインの統一、熊野本宮館における展示表記の内容の見直しを行い、外国人観光客が安心して観光できる環境を整備。



田辺市熊野ツーリズムビューロー

プロモーション事業部長

#### 経歴

カナダ・マニトバ大学卒

日本では、「愛・地球博カナダ館」ホスティングスタッフ、観光ガイドやスキーリゾートでインストラクターなどを経験。1999年より、旧本宮町（現田辺市）にてALTとして3年間勤務した後、帰国。

その後、2006年に田辺市熊野ツーリズムビューロー発足が設立された際に、同国際観光推進員に就任。

#### 分かりやすい解説の例

##### 熊野本宮大社

「熊野権現垂迹縁起」、『長寛勘文』所収によれば、熊野の神は中国から渡来し、九州→四国→淡路島→紀伊切部山→新宮神倉とめぐり、最後に本宮大斎原に天降ったとある。熊野の神が史書に初めて登場するのは奈良時代末で、社殿に関する記述が見えるのは11世紀のことである。その後、幾度か造修が行われているが、基本的な社殿配置の変更はなかったようである。しかし、明暦7年の火災後の造修では、夫須美神と速玉神を祀る相殿と証誠殿を区切る廻廊・理門が取り払われ、仏堂や護摩堂・三重塔といった仏教関係の堂塔が再建されていないなど、それまでと異なる姿となっている。その後、明治22年の水害により、上四社が現社地に遷座し、中・下四社は旧社地の石造の小さな祠に祀られるという姿になった。

日本人でさえ理解しづらい解説文を外国人目線で分かりやすく書き換え

##### Kumano Hongu Taisha

Kumano Hongu Taisha has gone through many changes over the centuries due to natural and human influences, including fires, floods, and political and social developments. The pavilions have subsequently gone through periodic rebuilding, but its architectural style has remained consistent for over 800 years. In 1889, a tremendous flood of unprecedented size destroyed the shrine completely, and the salvaged materials were used to reconstruct some of the pavilions at its present location. Four of the 12 deities were moved to the new site, and the remaining 8 are enshrined in two stone monuments at the original shrine ground, known as **Oyunohara**.

#### ポイント

- 単に外国人というだけでなく、熊野の歴史に精通しており、文化や歴史を分かりやすく説明できる人材ということで採用。

## 根岸 正 氏（通訳案内士【英語】）

【江東区：深川江戸資料館】

### 取組内容

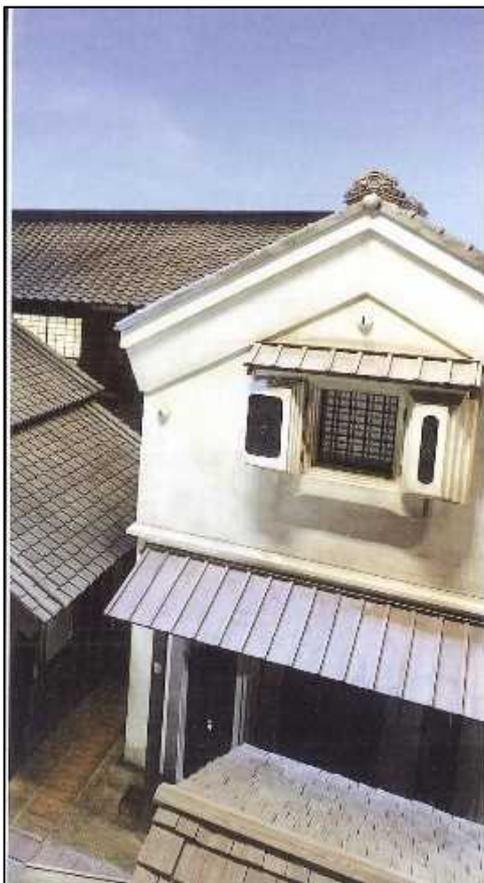
- 外国人が読んでも理解できるパンフレットを作成するために、1年半を掛けてパンフレットを刷新。現場で通訳案内を行っている方々が英語解説を作成。



### 経歴

旅行会社勤務中に海外勤務11年（香港・オーストラリア）を含め、国内外でガイド教育業務に携わる。

その後、通訳案内士として業務する傍ら、その経験や、ご当地検定などの歴史や文化に関する資格を生かし、観光に関する講座や通訳案内士養成講座などの講師を数多く務めている。



### Welcome to Fukagawa Edo Museum!!

Fukagawa is located along Sumidagawa River and Tokyo Bay, and a lively common people's community.

The museum was established to reproduce the life-sized row of stores and houses on the streets of Fukagawa-Saga chō in Edo in the mid-19th century.

All these buildings are constructed with new materials deliberately made to look old, and applied with traditional construction techniques to not only the outside but also the inside.

This museum features the display of daily utensils of the old days

suitable for the commoner's lifestyle.

Furthermore, the lighting and sound effects change regularly to create an atmosphere of every different time from dawn to dusk of a day in Edo.

Please feel free to walk into the houses and touch the everyday life utensils there.

4

### ポイント

- 根岸氏はパンフレット作成以前から、当概資料館の英語解説員を務めており、展示内容及び外国人来訪者が現場で何を知りたいかを熟知していることから、パンフレットの英語部分に関するコーディネーターを依頼。

## 4. 解説の改善・充実のための取組の進め方

---

## 解説の改善・充実のための取組の進め方

文化財は、大半を個人、又は地方自治体が所有・管理している。

私どもが提言した内容を普及するにあたっては、文化財を所有・管理されている方々に、以下のことを自覚・理解していただくことが重要である。

### 観光部局と文化財保護部局との連携

現在の行政機関では、観光部局は首長部局、文化財保護部局は教育委員会に所属していることも多く、うまく連携ができず文化財を観光資源として活用できていない例が見られる。

それは、文化財を観光資源として活用したい観光部局と、文化財の保存にも責任を負っている文化財保護部局では、そもそも行政目的が異なる部分があることが連携がうまくいかない大きな要因であるとも考えられる。

今後は、文化財は単に保存費用がかかるものであるという考えから、活用次第では観光収入を生むものであるという考えにとらえ直し、観光部局と文化財保護部局が協力して文化財を地域の観光振興資源として活用し、外国人観光客の獲得など地域全体の活性化に生かす方策を検討することが必要である。

また、そのためには英語解説の充実など観光コンテンツとしての質の向上を行い、魅力ある観光コンテンツとしていくことが重要である。

### 外部の視点の取り入れ

文化財は鑑賞する人が評価して初めてその価値を十分に発揮するものであり、適切に評価してもらうためには、文化財について理解してもらう必要がある。

現在も多くの地域や施設において、多言語化パンフレットやHPの作成を行っているが、日本人目線で書かれた文章を直訳されたものが多く、実際は外国人が理解できないものが多い。

本書の中でも既に記載しているとおり、日本の歴史を知らない外国人には日本人が無自覚に使っている基本的な用語の意味を知らないのである。

外国人に理解してもらうためには、日本人だけで行動するのではなく、外国人の方に協力していただき、外国人目線でこういったことが理解できず、こういったことを知りたいのかを把握した上で行動することが有効である。

また、文化財の解説を行うにあたり、単に外国人であるというだけでなく日本の歴史・文化に関する深い理解は不可欠である。

解説を作成するにあたっては、これらのことを理解した上で必要な人材を確保し、外国人と日本人が協力して、正しい日本文化の知識を外国人が理解できる英語で作成し、外国人が文化財を鑑賞したときに、その文化財がどのようなもので、どういう価値があるのか理解できる解説を行うべきである。

## 国等による支援策の活用

解説の改善は所有者の役割であり、自発的に取り組んでいただく必要がある。

しかし、所有者が解説の改善するにあたっては、人材確保が困難であったり、財政的な理由で自力での対応が困難な場合があるため、国及び地方自治体に対し、文化財所有者等が自発的に行動するために必要なサポートが求められることがある。

その際のサポートの手法としては、以下のようなものが考えられる。

- ・ 英語解説のメリットや導入のコツとともに、有用な人材をリスト化し、文化財を観光に活用しようとする文化財所有者等に周知することにより、文化財所有者等が自発的に行動できる環境を整備。
- ・ 解説の内容については、一般化してマニュアルを作成することは困難であることから、先行してそれらの取組を行っている事例をモデルケースとして紹介。
- ・ 人材確保やパンフレット作成等により発生する財政負担軽減のため、財政的支援。「観光地魅力創造事業」「文化財総合活用戦略プラン」などの支援事業についての説明会を行い、これらを利用してできる事業の内容を周知し、普及させる。

## 支援事業の紹介

### 地域資源を活用した観光地魅力創造事業（観光庁）

【参考】平成28年度予算額 3.4億円

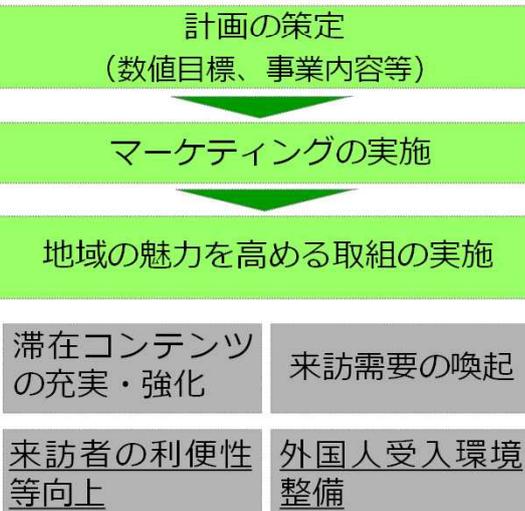
地域の観光資源を活かした地域づくり施策と、マーケティング、受入環境整備等の観光振興のための施策を一体で実施する地域を支援。

応募主体：市町村、観光協会、交通業者等により構成される協議会

補助率：全体費用の1/2相当の事業費を国が負担

### 事業フロー

取組の評価を踏まえた計画の見直し



国によるパッケージ支援

- 計画策定に係る費用
- マーケティング費用
- 滞在コンテンツの企画作成費用
- 二次交通の整備に係る実証実験等の費用
- 受入環境整備、おもてなしの向上に係る費用

等

## 支援事業の紹介

### 文化財総合活用戦略プランの強化（文化庁）

#### 日本の歴史・伝統文化情報発信推進

外国人旅行者のニーズに合わせた文化財の解説作成、情報発信等を行うモデル事業を支援。

応募主体：地方公共団体

補助率：定額

予算額：21.6億円のうち0.3億円

- 外国旅行者のニーズにあった文化財(情報)の調査
  - 文化財の外国語での正確で分かりやすい解説の作成
  - 地域の文化財・歴史に関する外国語（多言語）による情報提供
  - 地域の歴史・伝統文化を解説するガイドの育成
- 等



モデル事業の成果を反映

### 地域の文化遺産次世代継承事業（18.1億円）

応募主体：地方公共団体、実行委員会など

補助率：定額

対象事業：情報発信、人材育成、人件費、調査研究など

など文化財を活用するための各種支援策（文化財総合活用戦略プラン【28年予算96.3億円】）を実施

## 5. 参考

---

## メンバー表

### 文化財の英語解説のあり方に関する有識者会議 委員

(五十音順：敬称略)

氏名	団体名
デービッド・アトキンソン	小西美術工藝社 代表取締役社長
岩橋 克二	神社本庁 教化広報センター 広報国際課長
落合 偉洲	全国国宝重要文化財所有者連盟 理事長 久能山東照宮 代表役員
エリック・スミス	自治体国際化協会 JETプログラム事業部 プログラムコーディネーター
高野 明彦 (座長)	国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系教授
野田 博明	全日本社寺観光連盟 理事
萩村 昌代	日本観光通訳協会 会長
平岡 昇修	全国国宝重要文化財所有者連盟 副理事長 東大寺 執事長
三重野 真代	京都市 産業観光局 観光MICE推進室 MICE戦略推進担当部長
マリサ・リンネ	京都国立博物館 フェロー国際交流担当

#### 【オブザーバー】

齊藤 孝正 文化庁文化財部文化財鑑査官  
 宮田 繁幸 文化庁文化財部伝統文化課主任文化財調査官  
 朝賀 浩 文化庁文化財部美術学芸課主任文化財調査官  
 佐藤 正知 文化庁文化財部記念物課主任文化財調査官  
 豊城 浩行 文化庁文化財部参事官（建造物担当）付主任文化財調査官  
 下間 久美子 文化庁文化財部参事官（建造物担当）付文化財調査官

#### 【事務局】

文化庁文化財部伝統文化課  
 観光庁観光地域振興部観光資源課

## 第1回 「文化財の英語解説のあり方に関する有識者会議」

- 日時：平成27年10月14日（水）14:00～16:00  
場所：中央合同庁舎3号館（国土交通省） 10階 海事局第6会議室  
議題：（1）検討の背景及び議論の進め方について  
（2）文化財の英語解説に関する取組の紹介、意見交換  
（3）ヒアリング候補の選考について  
（4）その他

## 第2回 「文化財の英語解説のあり方に関する有識者会議」

- 日時：平成27年12月16日（水）13:30～15:30  
場所：中央合同庁舎7号館（文部科学省 東館） 5階 第1会議室  
議題：（1）前回議事要旨の確認  
（2）優良事例のヒアリング  
・田辺市熊野ツーリズムビューロー  
・日光東照宮（新宝物館）  
・妙心寺退蔵院  
（3）報告書骨子について  
（4）その他

## 第3回 「文化財の英語解説のあり方に関する有識者会議」

- 日時：平成28年2月22日（月）15:30～17:30  
場所：中央合同庁舎3号館（国土交通省）8階 観光庁国際会議室  
議題：（1）報告書について  
（2）その他

